

環境省の「自然共生サイト」認定事業において
大分キャノン大分事業所の緑地帯が生物多様性保全区域に認定

大分キャノン株式会社大分事業所（大分県大分市迫）敷地内の緑地帯「大分キャノン株式会社大分事業所～キャノンの森～」が、環境省が実施する「自然共生サイト」認定事業において、生物多様性保全区域に認定されました。本事業は、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする世界目標（30by30）の達成に向けて、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定するものです。



工場と豊かな自然が共存する大分キャノン大分事業所



大分事業所内のビオトープ

大分キャノンは、生物多様性が持続可能な社会にとって重要な基盤であることを認識し、事業活動を進めるなかで生物多様性保全の活動に取り組んできました。今回認定を受けた「大分キャノン大分事業所～キャノンの森～」は、大分事業所内の緑地面積 約 17 万㎡の緑地帯です。地域の生物多様性保全に貢献していることに加え、従業員による外来種の除去作業や緑地管理、キャノンの森を活用した環境授業、鳥をテーマとした生物多様性保全活動「バードランチ」の取り組みも評価されました。

「バードランチ」では、敷地内に飛来する野鳥を定期的に調査するほか、巣箱やバードバスの整備、ビオトープ（第一調整池）などの緑地管理を行うことで、野鳥の生息環境を整えています。これまでに確認した野鳥は、2016 年の 35 種から 2023 年には 50 種※1 に増え、生息種の多様化を確認しています。この中には、大分県で絶滅のおそれがあるとされている※2、サンショウクイ、オシドリ、キビタキ、サンコウチョウ、ノスリ、ヤマドリなども含まれています。

また、生物多様性の保全にも重要な役割を果たす里山保全も行うことで、人と自然と生物が共存する環境構築を進めています。

今後、大分キャノン大分事業所以外の拠点でも「自然共生サイト」認定を目指すとともに、生物多様性の保全に向けた活動をキャノングループ全体で推進していきます。

〈「キャノンバードランチプロジェクト」について〉

日本野鳥の会の監修のもと、2014 年よりキャノン本社敷地内に飛来する野鳥の調査を開始、2015 年にプロジェクトとして発足しました。本社を含む国内外のキャノングループ 58 拠点※1 がプロジェクトに参加し、各拠点に根ざした生物多様性保全活動を展開しています。公式ホームページ、X（旧 Twitter）や YouTube では、各拠点の取り組みや確認した野鳥の紹介に加え、野鳥写真図鑑や野鳥の撮りかた講座、野鳥にまつわるコラムなどを発信しています。

〈ご参考〉

●「自然共生サイト」に認定された大分事業所内の緑地帯「大分キャノン大分事業所～キャノンの森～」





●大分事業所敷地内で確認されている生物の一例



ハクセキレイ



ヤマガラ



カワラヒワ